



13
3037
1



へ13
3037
1-10

門へ13
3037
巻1

谷南父...
七...
七...

千代物語叙

日月の當り明るると欲まれども浮き
是を掩ひ河水の清あると欲まれ
とも沙石の穢を穢も人性不潔あり
平らなるを欲まれども嗚呼是を
いふは... 西山の目と馬の

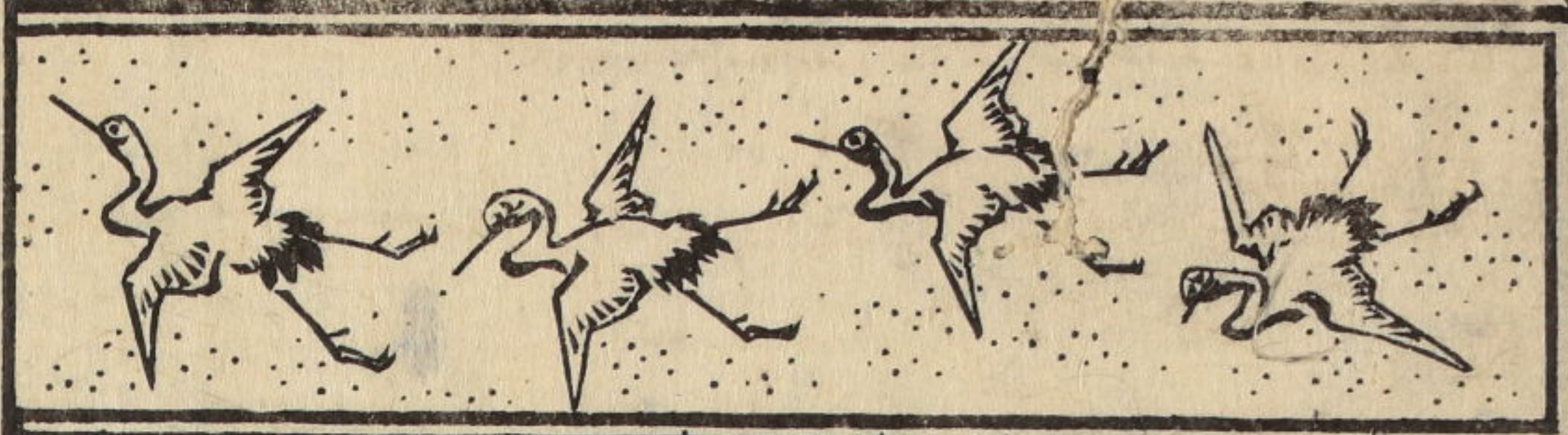
方後口演
本又や... 落年... 昔... 見料の外... 以方... 一組... 月日

雖もあつ能くも流の水と摺へ今令傳
しんが せり せんめい
 ざるゆや水もさう今只存とらんども
さんせい せい せんせい
 唯も亦保ごし 理の消て存あると
あす まんたのち ぶんび せんせい
 釈もあつら已が女と顔ごらん 意皆
とん せい ぶん ちゅうい あり
 彼の凝念もさう 活も 羈もあつ 忠
よく きねん ぐん せい あり
 此も忠とを好ましく 絆とあるもの 彼と
しんせい せい けん くれ

ロリ

心も果を飯として 飯の味もい時ほ
しん くれ べい べい べい べい
 其も悪を積るの 菜も 肉も 刺も 駛るよ
その あく つむ あり あり あり あり
 解して 解る名刺の 清濁を 知れ 現
あひ せい せい せい せい せい
 其の味も 人を 解るの 味も 人 悟る 陌土の
あひ せい せい せい せい せい
 其も 芥も 風も 小 樽も ざるを ちや
あひ せい せい せい せい せい

丁亥益春 東里山人誌
 



千代物語 目録

- ① 子代女如まひ立の事
- ② 子代女大内家へ目見の事
○二 智由堂受の事
- ③ 桂鬼雷右エ門忍汁の事
- ④ 釜川流余の記をまざる事
○三 岩玉の庄報せむるの事
- ⑤ 子代女危難を逃ぐる事



ロノ二



- ⑥ 子代女捕刈室のはらむる事
- ⑦ 建勢永三希室の波入通の事
- ⑧ 子代女身もの大事を信する事
○五 托女尾上自害の事
- ⑨ 子代女お親お孫會の事
- ⑩ 建勢永三希海屋へ入むる事





性哉
憂浮世
何處
奇此生



同藩
桂鬼雷右門定是

隨世
似有望
背俗
如狂人



大内黃門
義隆の家臣

美川導正忠友兼

播州室津尾
高砂屋尾上

一顧傾人
城再顧
傾人國



ロノ五

千代物語卷の一

目録

- 千代女生ひ立の事
- 千代女大内参入目見の事
- 千代女大内参入賞美の事



山陽千代物語卷之一

東都 鼻山人著

一 笠川千代女生立のり
 付此於をた支知のり

戦國策ふいそく太山ハ土壤を纏らず故
 其の大とあるのそや河海ハ細流を撰む
 能との深きものを就く王者危庶を却け
 よく其徳を明くせしと名を著し其徳を

邊り小伊与平として僅りある高るひしと妻を遊
めあり多頃ハ永祿の末ふ的つて足利將軍景
益威日く小磯くして五歳七道のりて奸雄の
如く起り瓜のぶとく小割く四海増らく静あらず
け伊与平も元来四國あつてあつてまき老ありしが乱
たる妻の中小家如女田畑とての境もあつた今
ふ安く家産次はあつてまらり小妻を海ら
とてあつて家宅持傳へり田畑ハ皆賣代あると

千代一ノ一

見せしむる積の船一艘を求め家成什是を
五載はく四季の佐舟朝夕の嘗むる足程して
其妻の妻と水主小船に二人をり傳へてあぬ
波のうを伝家して難波堺兵庫室半室の津
浦より四國九國の湊へ一舟の積りて法々の
在物ありハ軍國の糧米を運び朝夕を
兼より中知天を二人の娘を伝へての
ふ代とせしむるは子孫のなせる業傳へ

よ 代より平安城の古風を以山口小榎され西の都と
時ありて威名西海小榎きさるるが其の幕下り
兼川源正忠友若者といひける者一とせ義隆の徳
とて京師室所將軍家一拜系のゆるすんかの
ふ代がそのを仲くゆきさるる我ふ子あるればけ子を
貫つひゆく家門相統の望もも傳くんと父侍と平
が傳くよりあく傳われがまきより望むおとくふ代
七葉の夾縫心が方へ我々送るる源正のうらり

千代一ノ二

あく悦きて防別へ傳ふひ海うまぬ法との掌の
く人の玉と電電等閑あるは若むしてなふ又あは
女女ありくる小今へ子習言の道系竹の業まきも
ふふまらせとく相う傳うせしうぶとの近國小榎れ
あはれ奇童女とくありふくるさるれば源正のあはれ
清うあく是れいつくさる程お七のしもをやまきも
八の秋八日今日今宮八幡文のおあはれあはれ
は日ありの移う物又せんとして家の子八尾あはれと

けつたよき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 りておとほしき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 流しおとほしき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 足物の人野々々九右衛門お敷の子を散らす
 如く難しきおとほしき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 出るものおとほしき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 非事の方の目おとほしき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 おとほしき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 地もあまらバユハ野々々お敷あさせ婢女等あまら

み代一ノ四

風ふ尾元の精あがどく押合押合あまら中ふたり
 まち砂煙うらを暗ましてし喧嘩子娘お敷あ
 よと噪動して右往左往お人波をうら血まをさる
 牡羊の群集の中を踊り蹴て我儘と逃るものあり
 あつたおとほしき年暮お敷あさせ婢女等あまら
 苦いむののめありその混雑お騒がせられて
 子を見ぬものの子お敷あさせ婢女等あまら
 熱れお敷あさせ婢女等あまら

今もふたつねも名乗らばしむるに
 解きの僕ふりい合ひあはれを先立たせて
 上りの刀ざらぬおぼへしとてしほし
 相の道もあひひけあはるる拓と荒ら
 ばあはのいふお記とてまはるまづ山
 しのおおぼろぎあはれあはるる境あ
 るまじもあはるるあはるるあはるる
 足も是れあはるるあはるるあはるる
 足も是れあはるるあはるるあはるる

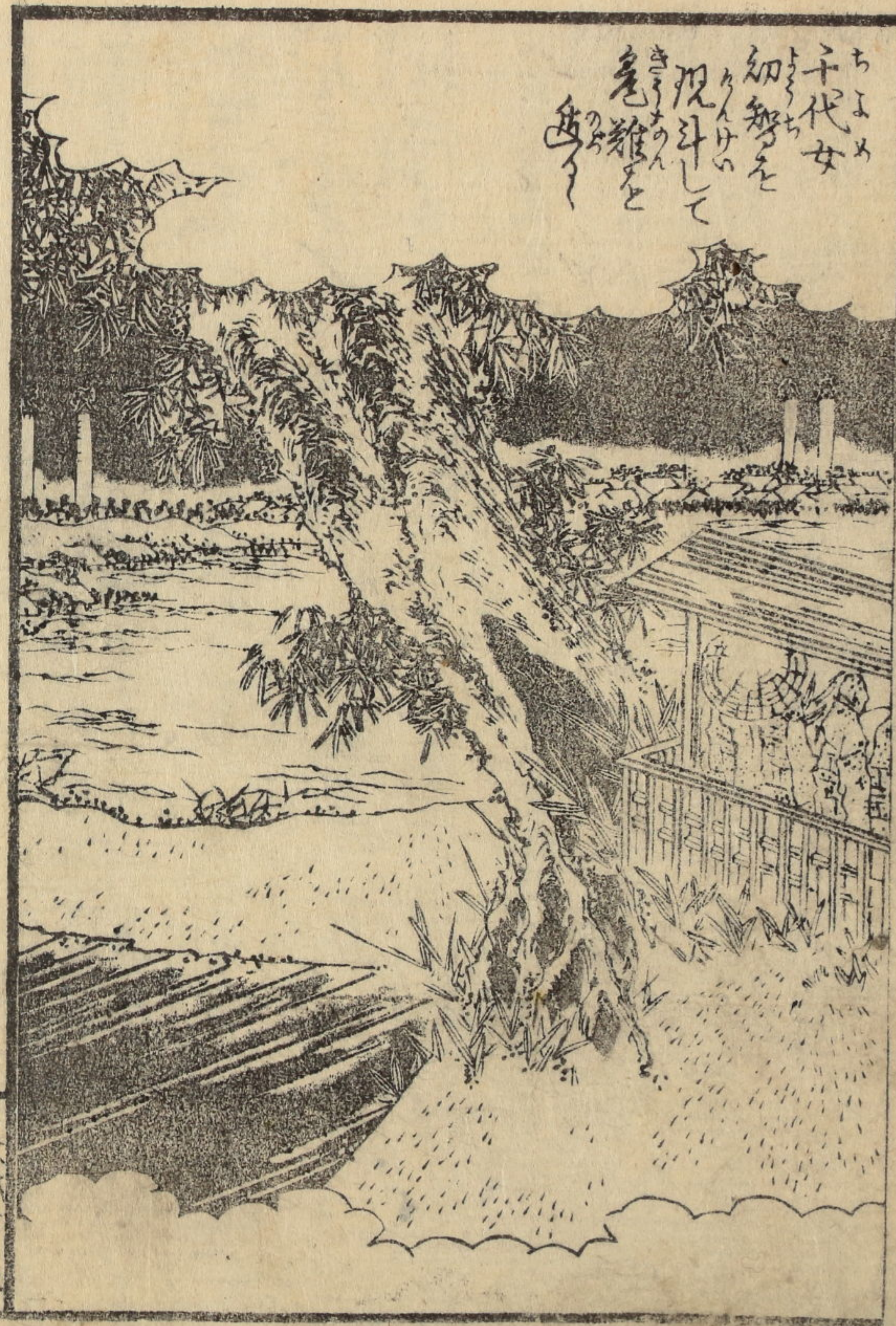
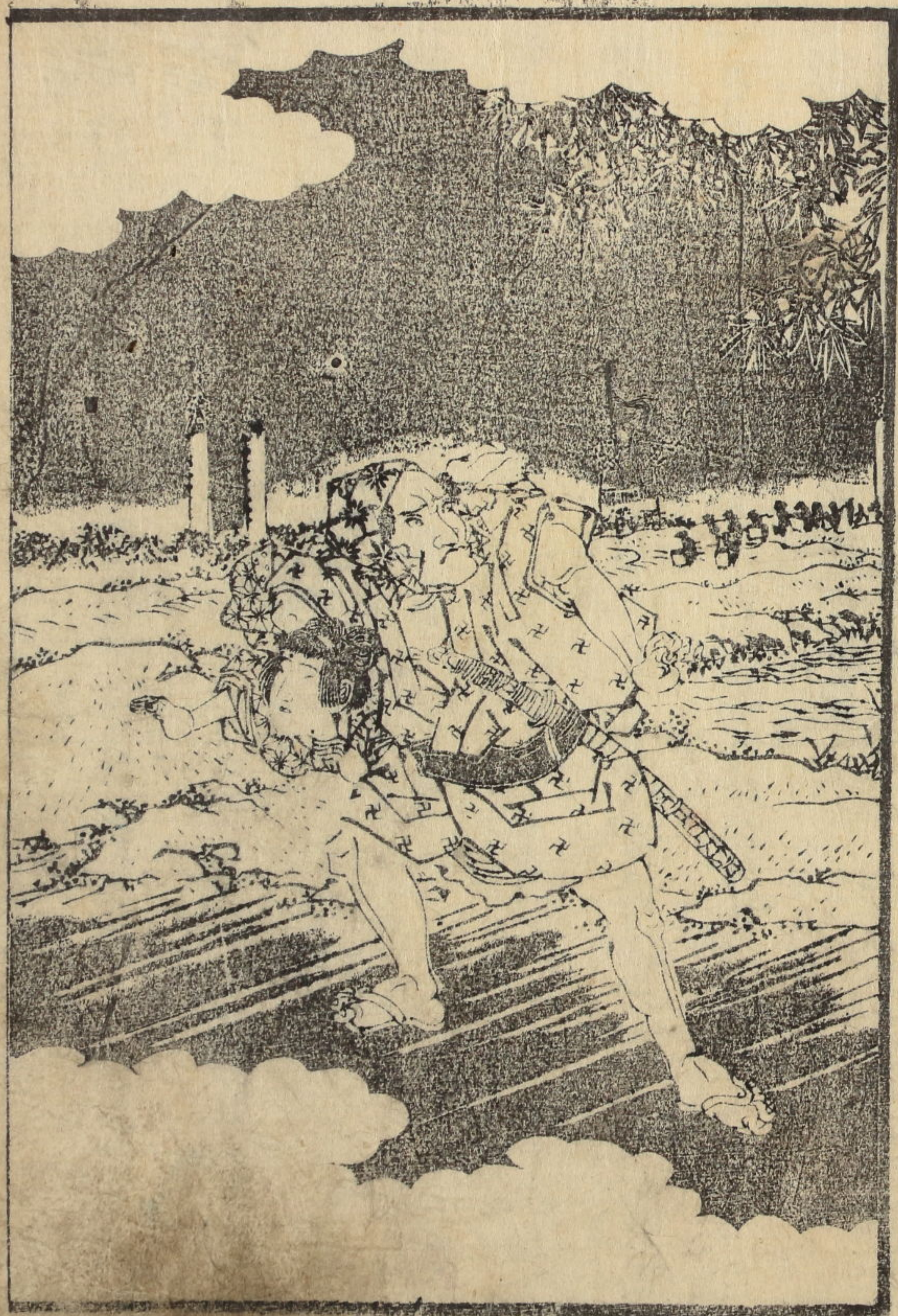
あはるる

今もふたつねも名乗らばしむるに
 解きの僕ふりい合ひあはれを先立たせて
 上りの刀ざらぬおぼへしとてしほし
 相の道もあひひけあはるる拓と荒ら
 ばあはのいふお記とてまはるまづ山
 しのおおぼろぎあはれあはるる境あ
 るまじもあはるるあはるるあはるる
 足も是れあはるるあはるるあはるる
 足も是れあはるるあはるるあはるる

ざらーと地のひ俄く不喧笑ふるの姿で群集の人を
 驚かしその練動も亦も一人の怪ふ代をうらみ
 操肩車も亦も群集の中をよろしく紛まひで
 逸足中一人少あは方へ松吹風のさるくと走り
 去るふ代へ肩不吾もあらも是の何國へは是れぞ
 何じふ勢へ走れどとりど兼螺壳のものをいそ
 舟の方へ逃びふ代へも亦も智恵か」とこれを
 俵の錢をかどりしはさるも老あつとあつたを

子代下八

湯うふ声をききあぐらあつた見あや雲をのん其の
 如何せんと思ひくろふ先盗人の目もはく手物を
 とろく湯えんト驚ふさうたる勢もど揺る懐へ湯へ
 能備もあらが死りて逃へと地とまふ勿難く
 あればよも逃れまど尋やせん角やせんト地のあふ
 向ふの方より金瓶の上へ滑よと地を借人能言
 批灯燈へは金瓶おたる連ふもあつたが
 雲あつた物の海るとト人てはさるくは遭ひつり



ちよめ
千代女
幼舞を
見斗して
きりたん
毛雞を
西

千代
一
九

あつたさうく〜^{あつた}美子やとて皆一はふ感^{あつた}〜^{あつた}多をれ
 あり局の給ふ付とくおの方の給^{あつた}産の得^{あつた}のけさふ
 子を泣く〜^{あつた}苦いふおのきり何^{あつた}者の子も何とて
 局不^{あつた}得それまのし^{あつた}ぢと^{あつた}等^{あつた}のみ^{あつた}が^{あつた}は^{あつた}家^{あつた}人^{あつた}美^{あつた}川^{あつた}
 強^{あつた}山^{あつた}が^{あつた}娘^{あつた}ふ^{あつた}代^{あつた}と^{あつた}り^{あつた}て^{あつた}今^{あつた}年^{あつた}ハ^{あつた}ツ^{あつた}ふ^{あつた}あ^{あつた}う^{あつた}の^{あつた}が^{あつた}か^{あつた}中^{あつた}の^{あつた}
 次^{あつた}身^{あつた}あ^{あつた}て^{あつた}母^{あつた}の^{あつた}不^{あつた}ず^{あつた}も^{あつた}汚^{あつた}糸^{あつた}ま^{あつた}で^{あつた}ま^{あつた}の^{あつた}つ^{あつた}ゆ^{あつた}る^{あつた}の^{あつた}妻^{あつた}と^{あつた}あ^{あつた}れ
 多^{あつた}く^{あつた}の^{あつた}人^{あつた}の^{あつた}是^{あつた}ま^{あつた}き^{あつた}災^{あつた}難^{あつた}を^{あつた}逃^{あつた}れ^{あつた}て^{あつた}係^{あつた}る^{あつた}由^{あつた}連^{あつた}く^{あつた}の^{あつた}
 係^{あつた}を^{あつた}蒙^{あつた}る^{あつた}る^{あつた}の^{あつた}偏^{あつた}ふ^{あつた}あ^{あつた}り^{あつた}難^{あつた}き^{あつた}妻^{あつた}の^{あつた}ひと^{あつた}と^{あつた}と^{あつた}を^{あつた}ぢ^{あつた}と^{あつた}

子代下三

の〜ト^{あつた}最^{あつた}あ^{あつた}と^{あつた}中^{あつた}の^{あつた}お^{あつた}や^{あつた}ら^{あつた}る^{あつた}あ^{あつた}ぞ^{あつた}お^{あつた}の^{あつた}方^{あつた}他^{あつた}の^{あつた}な^{あつた}ま^{あつた}ひ^{あつた}て
 徳^{あつた}の^{あつた}美^{あつた}川^{あつた}が^{あつた}娘^{あつた}あ^{あつた}ら^{あつた}ぶ^{あつた}着^{あつた}て^{あつた}ゆ^{あつた}ら^{あつた}お^{あつた}係^{あつた}る^{あつた}の^{あつた}の^{あつた}よ^{あつた}次^{あつた}く
 の^{あつた}女^{あつた}房^{あつた}産^{あつた}を^{あつた}お^{あつた}あ^{あつた}〜^{あつた}あ^{あつた}ひ^{あつた}て^{あつた}係^{あつた}る^{あつた}子^{あつた}を^{あつた}持^{あつた}て^{あつた}ら^{あつた}ん^{あつた}親^{あつた}の^{あつた}
 咄^{あつた}じ^{あつた}ら^{あつた}〜^{あつた}か^{あつた}ん^{あつた}ど^{あつた}咄^{あつた}〜^{あつた}が^{あつた}程^{あつた}山^{あつた}産^{あつた}て^{あつた}父^{あつた}が^{あつた}め^{あつた}と^{あつた}ら
 送^{あつた}ら^{あつた}ま^{あつた}す^{あつた}〜^{あつた}お^{あつた}係^{あつた}る^{あつた}〜^{あつた}何^{あつた}〜^{あつた}あ^{あつた}て^{あつた}の^{あつた}持^{あつた}青^{あつた}〜^{あつた}の^{あつた}言^{あつた}ら^{あつた}が
 解^{あつた}ま^{あつた}の^{あつた}女^{あつた}房^{あつた}産^{あつた}お^{あつた}の^{あつた}〜^{あつた}ふ^{あつた}帷^{あつた}子^{あつた}ヨ^{あつた}様^{あつた}侍^{あつた}ヨ^{あつた}様^{あつた}〜^{あつた}
 紙^{あつた}あ^{あつた}ら^{あつた}ひ^{あつた}種^{あつた}〜^{あつた}の^{あつた}鼻^{あつた}子^{あつた}あ^{あつた}ど^{あつた}持^{あつた}あ^{あつた}〜^{あつた}て^{あつた}ふ^{あつた}代^{あつた}が^{あつた}あ^{あつた}ら
 攻^{あつた}ぞ^{あつた}熱^{あつた}め^{あつた}ら^{あつた}る^{あつた}お^{あつた}の^{あつた}方^{あつた}は^{あつた}ま^{あつた}〜^{あつた}う^{あつた}る^{あつた}屋^{あつた}敷^{あつた}義^{あつた}隆^{あつた}公^{あつた}の^{あつた}を^{あつた}え

